



— 美しい道路 —

(今後の具体的な道路整備における中期的計画の作成にあたって)

地域産業の振興、文化交流、交通運輸の利便性の向上を図り、活力ある地域社会の進展に寄与することを目的として、石川県の中南部5市（金沢市・白山市・能美市・小松市・加賀市）で、加賀海浜道路期成同盟会を組織し、金沢市から加賀市を結ぶ海岸沿いの区間を連絡する基幹道路の整備促進に努めているところであります。

この道路は災害時の代替道路としても大変重要であると考えております。

しかしながら、この期成同盟会が結成されて約7年が経ちますが、具体的な進捗がみられていないのが現状であります。

そこで、道路整備着手の要望と併せまして、次のとおり、ご提案・ご要望をさせていただきたく、ぜひともご検討いただければと思います。

1. 広域間を連携する主要な道路整備事業の場合には、特別な補助制度の創設ができないでしょうか。
当然、地方においても財政負担は最優先で取り組むべきであると考えております。
2. 道路整備にあたって、環境に配慮した「緑溢れる道」づくりをしてはどうでしょうか。
地球温暖化による異常気象の脅威が、現実感を帯びてきた現在、道路整備においても「緑」を考えることが当然必要だと思えます。
英国人女性のイザベラバードが明治10年頃に日本の東北・北海道を旅して、書かれた「日本奥地紀行」の中にも記述がありますように、日本の原風景を再生するためには、緑豊かで潤いのある道造りに取り組むべきだと思えます。
3. 樹種は、郷土樹種（潜在植生）を原則とし、エコロジカルで郷土色ある道路植栽を提案します。
4. 植栽方法は、疎・密・単植又、高木・中木・低木・地被などの変化などの変化をつけ、できるだけ管理をしなくても良いように生態的視点からの植栽を行い、数年後には緑のトンネルを通過するように出来ないものでしょうか。
5. 防護柵等にはつる性植物を配しドライバーへの癒し効果を図って見てはどうでしょうか。
植栽にあたってはポット苗等を、地域住民と一体で植栽してもらおう等、新しい形で道づくりに市民に参画してもらい、住民に親しまれるみちづくりを目指してはどうか。

車主体の道路から、歩行者、自転車、公園に行かなくても気持ちよく車を気にしないで散歩になるような「みち」を望みます。

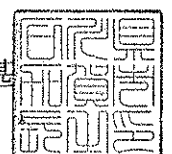
追伸 当市では、平成19年度を初年度とした新しい総合計画を策定し、将来都市像を「水」と「森」のふるさととし、まちづくりに取り組んでいるところでございます。

道路局長様におかれましては、是非とも当市をご視察いただければと思っております。

また、こちらからお伺い説明させていただく所存でありますのでよろしくお願ひ申し上げます。

平成19年5月10日

加賀市長 大幸 甚



■海外の事例

○車道・自転車道・歩道を緑地で分離（ハノーファー市街）



○自然素材でつくった路面排水路（ハノーファー市街）



○小動物の通路を兼ねたトンネル（ドイツのアウトバーン）



○緑に覆われた駐車場（ミュンスター）

木陰により涼がとれ、夏季もアイドリング運転によるクーラーが必要なくなるのでは



■加賀市の取組み

○子どもたちが採取した種子の育苗



○ポット苗の市民による植栽（都市計画道路南町熊坂線）



○市道沿道の緑化（転落防止柵への藤、ヘチマの植栽）

沿道の花で、信号待ちしているドライバーの心が安らかになる



○エコロジカル型の植栽（古九谷の杜駐車場）



○大型ショッピングセンターの植樹活動

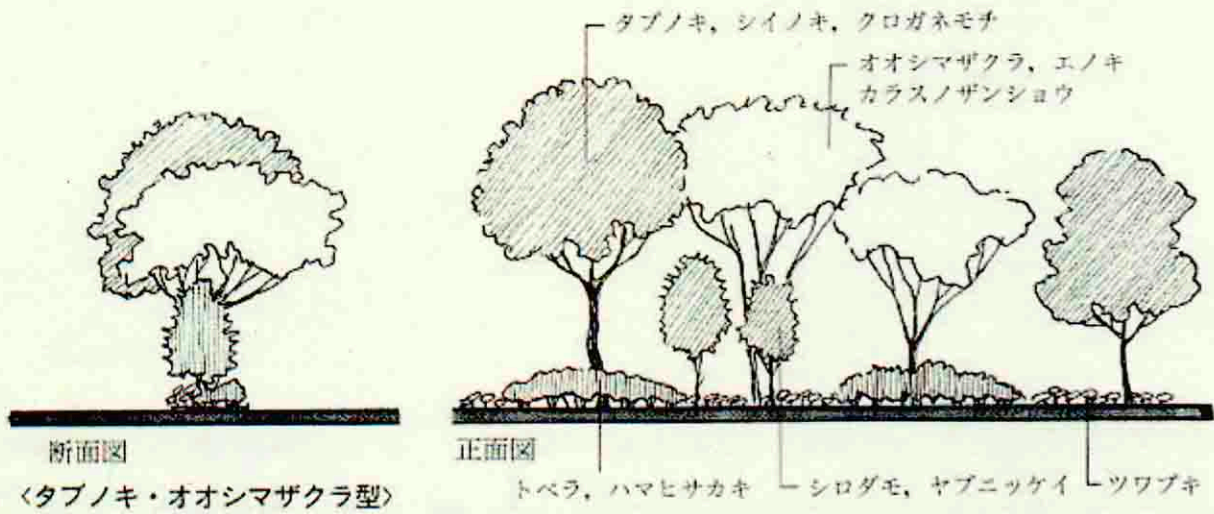
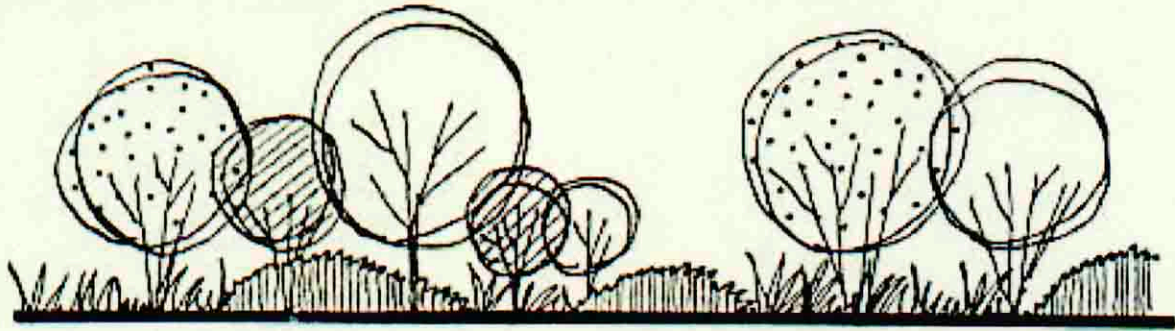


○土壌、風土に適さない樹種は根付かない失敗例

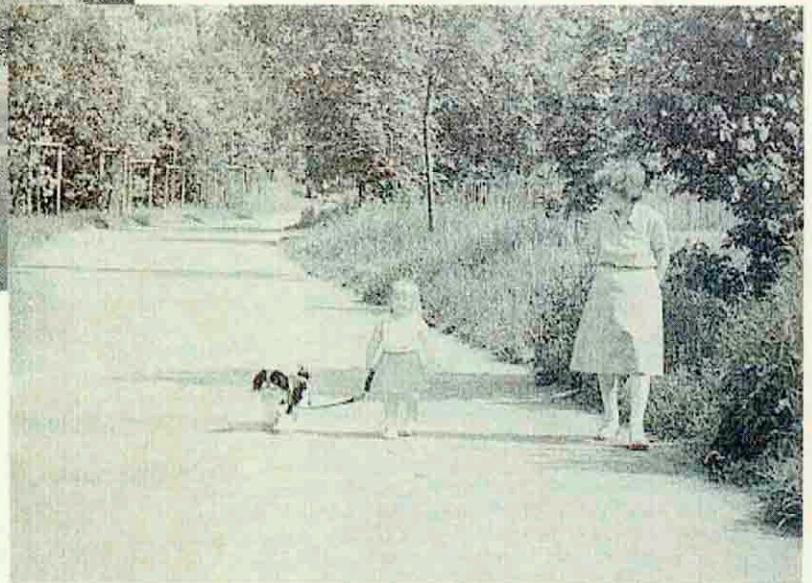
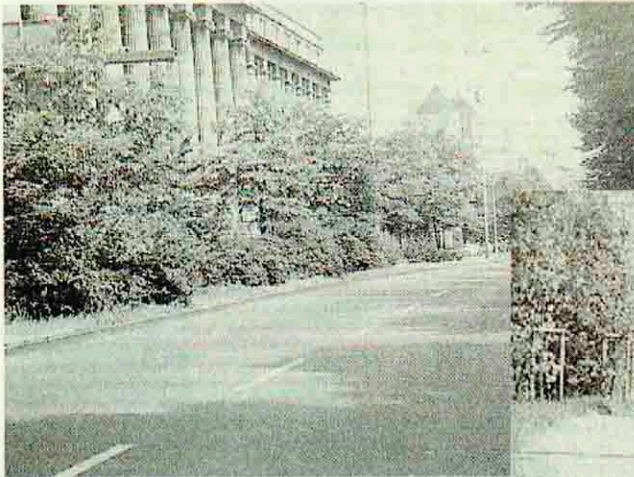


■道路植栽（案）

○街路植栽例（多様な植栽で生物の生息場となるエコロジカル型）



○エコロジカル型街路植栽イメージ写真（ドイツの街路）



○法面のポット苗による植栽

